

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIスリランカ短期国債ファンド(毎月決算型)」は、2019年12月17日に第35期決算を行いました。

当ファンドは、主として「SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資することで、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第35期末(2019年12月17日)

基準価額	8,456円
純資産総額	312百万円
第30期～第35期	
騰落率	1.7%
分配金(税込み)合計	210円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

# SBIスリランカ短期国債ファンド (毎月決算型)

追加型投信／海外／債券

## 交付運用報告書

第6作成期

第30期(決算日2019年7月17日) 第31期(決算日2019年8月19日)

第32期(決算日2019年9月17日) 第33期(決算日2019年10月17日)

第34期(決算日2019年11月18日) 第35期(決算日2019年12月17日)

作成対象期間(2019年6月18日～2019年12月17日)

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

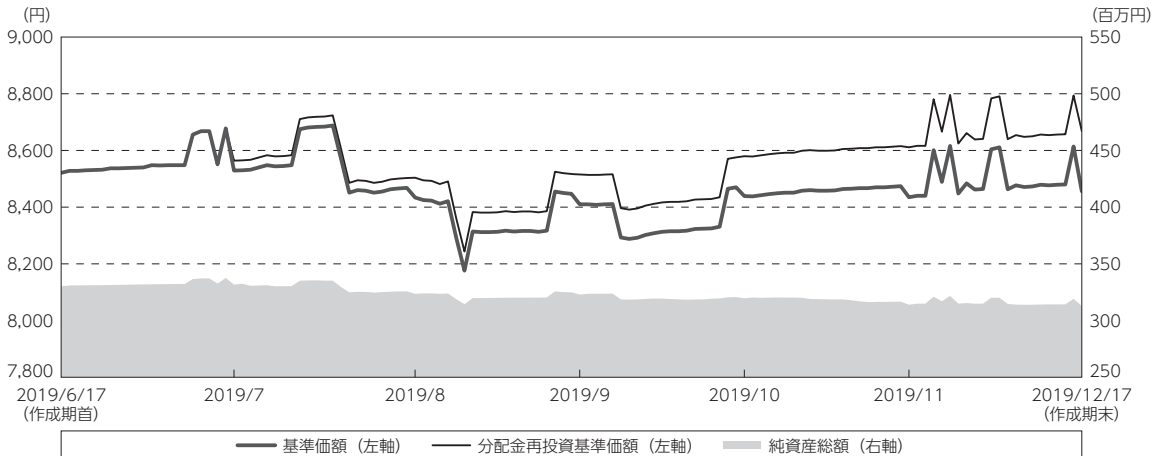
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2019年6月18日～2019年12月17日)



第30期首：8,521円

第35期末：8,456円 (既払分配金(税込み)：210円)

騰落率：1.7% (分配金再投資ベース)

- (注1) 当ファンドは主として「SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資し残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2019年6月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

## ○基準価額の主な変動要因

スリランカ国債市場では、5月30日のスリランカ中央銀行の金融政策会合で、政策金利の0.5%の引き下げが決定されたことから、金利は低下(債券価格は上昇)基調ではじまりました。為替市場では、円が主要通貨に対して上昇した影響を受けてスリランカ・ルピー安となったことが重荷となり、基準価額の上昇幅は限定的となりました。7月に入ると、スリランカ・ルピーが円に対して上昇しました。スリランカ国債市場では、米国の利下げ期待などを背景に、金利は低下(債券価格は上昇)基調で推移しました。その後、8月の金融政策会合における0.5%の利下げを受けて、債券相場は安定推移となりましたが、為替市場で円が主要通貨に対して上昇する展開となり、スリランカ・ルピーに対しても上昇(円高/スリランカ・ルピー安)となったことから、当ファンドの基準価額は下落しました。10月に入ると、米国が利下げを実施し、7月以降で合計3回の利下げとなったことや、米中貿易交渉への期待感などから、スリランカ・ルピーを含むアジア通貨が堅調に推移し、基準価額は上昇しました。11月16日のスリランカ大統領選挙では、親中派の前大統領の弟であるゴタバヤ・ラジャパクサ元国防次官が当選したものの、近隣諸国との関係強化の姿勢を示したことが金融市場で好感され、スリランカ・ルピーは主要通貨に対して上昇し、スリランカ国債市場も堅調に推移したことから、基準価額は上昇しました。当ファンドの基準価額は当作成期を通じて+1.73%上昇(分配金再投資ベース)しました。

## 1万口当たりの費用明細

(2019年6月18日～2019年12月17日)

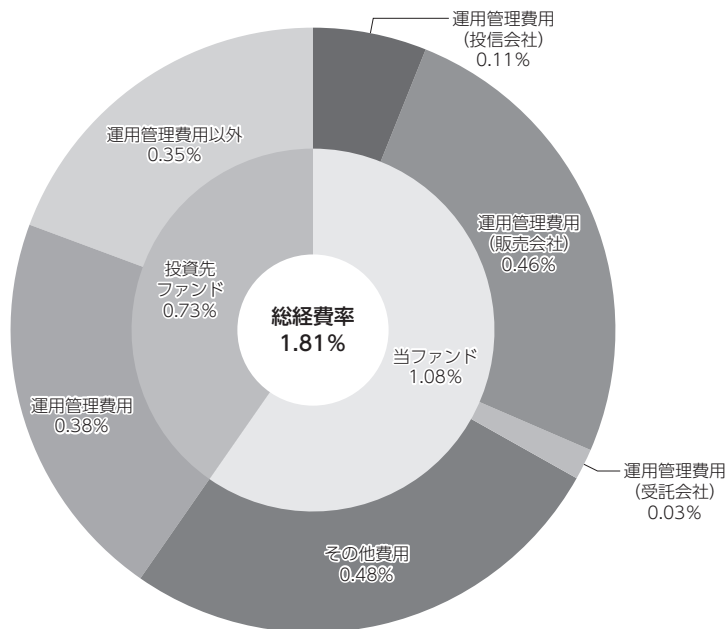
項 目	第30期～第35期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	25	0.300	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 5 )	(0.055)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(20)	(0.231)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.014)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	20	0.239	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 6 )	(0.068)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 )	(14)	(0.171)	開示資料等の作成・印刷費用等
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	45	0.539	
作成期中の平均基準価額は、8,459円です。			

- (注1) 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
- (注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。  
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.81%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.81
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.38
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.35

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

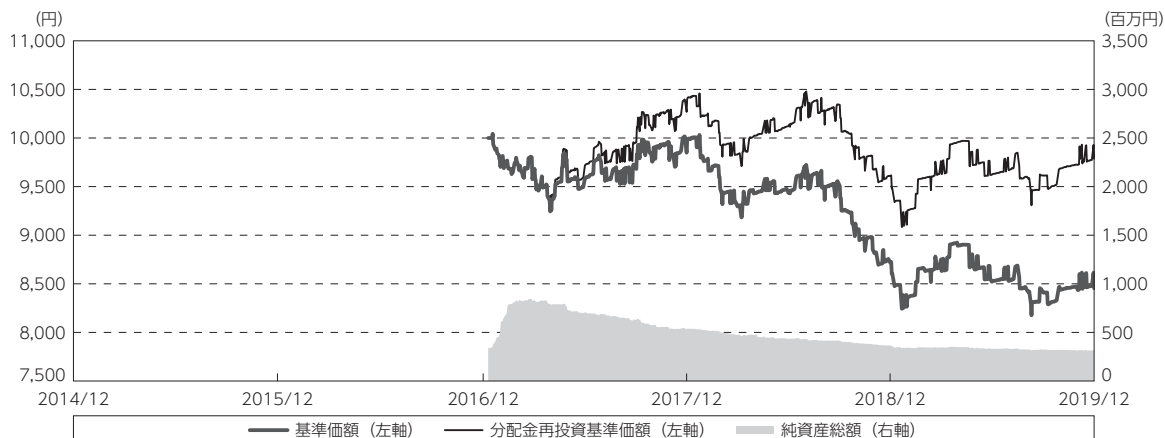
(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②・③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年12月17日～2019年12月17日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
(注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2016年12月29日から2019年12月17日)のみの記載となっております。

	2016年12月29日 設定日	2017年12月18日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,849	8,719	8,456
期間分配金合計(税込み) (円)	-	405	520	420
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	2.7	△ 6.4	1.9
純資産総額 (百万円)	340	530	364	312

- (注1) 当ファンドは主として「SBI ボンド スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資し残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。  
(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2017年12月18日の騰落率は設定当初との比較です。

## 投資環境

(2019年6月18日～2019年12月17日)

※以下のコメントの内容は、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社からのコメントを基にSBIアセットマネジメントが編集したものです。

## 【スリランカ国債市況】

対象期間を通じて、スリランカ短期国債利回りは低下（債券価格は上昇）基調となりました。

スリランカでは、2019年4月のイースター（復活祭）の最中に教会と高級ホテルで爆発が起き、多数の死傷者が発生しました。スリランカ経済は、国内総生産（GDP）の約5%を観光収入に依存していることから、テロの影響は経済にマイナスの影響を与えるものと考えられ、スリランカ中央銀行は5月と8月に計2回の利下げを実施しました。

## 【スリランカ国債市況推移】



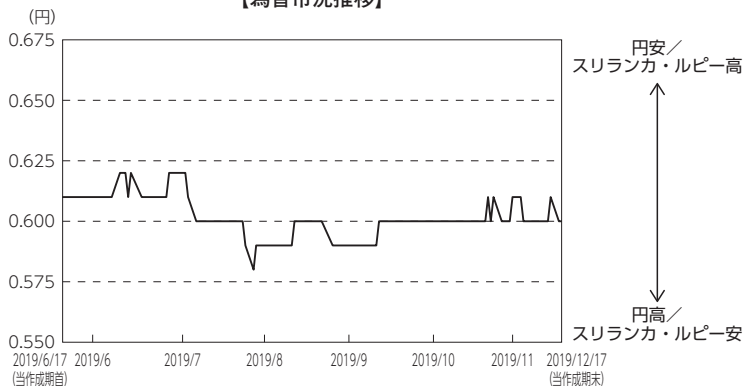
出所：Bloombergのデータを基にSBIアセットマネジメントが作成  
※国債利回りは2年国債利回りを使用しています。

## 【為替市況】

スリランカ・ルピーは円に対して下落する展開となりました。

為替市場では、スリランカ・ルピーを含む新興国通貨が、香港情勢の不透明感や株式市場の不安定さなどを背景に、軟調な展開となりました。8月以降は、米国の利下げ効果への期待感から新興国市場へ資金が流入する展開となり、スリランカ・ルピーは円に対して上昇しました。

## 【為替市況推移】



※為替レートは、一般社団法人投資信託協会が発表する対顧客電信売買相場仲値を採用しています。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2019年6月18日～2019年12月17日)

## &lt;当ファンド&gt;

主として「SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資し、残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

## &lt;SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)&gt;

スリランカの短期国債等(国債、政府保証債、政府機関債)及び国際機関債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。

なお、直近11月末時点のポートフォリオについては以下の通りとなっております。

## 保有債券の属性情報

平均残存期間(年)	1.8
平均修正デュレーション(年)	1.6
平均クーポン(%)	10.11
平均直接利回り(%)	9.93
平均最終利回り(%)	8.88
平均格付け	B

(注1) 平均格付とは、基準日時点での本ファンドの組入投資信託証券にかかる信用格付を加重平均したものです。そのため、本ファンドにかかる格付ではありません。

格付はS&P、ムーディーズ、フィッチの高いものを使用しています。

(注2) デュレーションとは、債券投資におけるリスク度合いを表す指標です。金利変動に対する債券価格の反応度(リスクの大きさ)を表しています。なお、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

(注3) 最終利回りは、債券購入日から償還日までを得る受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等、合計額が投資元本に対して1年当たりどの程度となるかを示すものです。

(注4) クーポンは額面金額に対する単年での利息の割合を表します。

(注5) 平均直接利回りは平均時価単価に対する平均クーポンの割合です。

## 資産別構成

債券	99.3%
現金等	0.7%

(注) 現金等には信託報酬及び為替ヘッジに伴う含み損益等も含まれます。

※上表については、SBI債券・インベストメント・マネジメント株式会社の資料を基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

## &lt;FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)&gt;

主要投資対象である「短期金融資産 マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れ、これを維持しました。

「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年6月18日～2019年12月17日)

当ファンドは主としてSBI bonds・インベストメント・マネジメント株式会社が実質的な運用を行う「SBI bonds スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資し、残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

## 分配金

(2019年6月18日～2019年12月17日)

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、下表の通りといたしました。

なお、分配にあてずに信託財産内に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万円当たり、税込み)

項 目	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
	2019年6月18日～ 2019年7月17日	2019年7月18日～ 2019年8月19日	2019年8月20日～ 2019年9月17日	2019年9月18日～ 2019年10月17日	2019年10月18日～ 2019年11月18日	2019年11月19日～ 2019年12月17日
当期分配金 (対基準価額比率)	35 0.409%	35 0.413%	35 0.414%	35 0.413%	35 0.413%	35 0.412%
当期の収益	35	35	35	35	35	35
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	119	120	122	128	129	133

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の見通しと運用方針

### <当ファンド>

引き続き、「SBI債券 スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資し、残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

### <SBI債券 スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）>

当該投資信託を運用している、SBI債券・インベストメント・マネジメント株式会社は、以下のようコメントをしています。

為替市場においては、スリランカ・ルピーは対円で底堅く推移するものと思われます。11月16日のスリランカ大統領選挙で、親中派の前大統領の弟であるゴタバヤ・ラジャパクサ元国防次官が当選したものの、近隣諸国との関係強化の姿勢を示したことが金融市場では好感されています。また、国際通貨基金（IMF）が引き続きスリランカを支援することを決定していること、スリランカ中央銀行がスリランカ・ルピーの下落局面での自国通貨買い介入を示唆していることなども、スリランカ・ルピーを下支える材料になると思われます。

債券市場においては、スリランカ短期国債利回りはレンジ内で推移することが見込まれます。スリランカ政府は、スリランカ経済の構造改革を進めることで、IMFからの引き続きの支援を得る方針です。

こうした環境下における当ファンドのパフォーマンスは、短期的には為替市場の影響を受けて変動する局面も想定されるものの、長期的にはスリランカ短期国債の相対的に高いインカム収益を中心にファンドの収益が積み上がっていくとみています。運用においては、引き続き主にスリランカ現地通貨建て短期国債での運用を継続する方針です。

### <FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）>

主として、短期金融資産 マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の短期金融資産等（短期公社債及び短期金融商品を含みます。）を中心に投資を行います。

## お知らせ

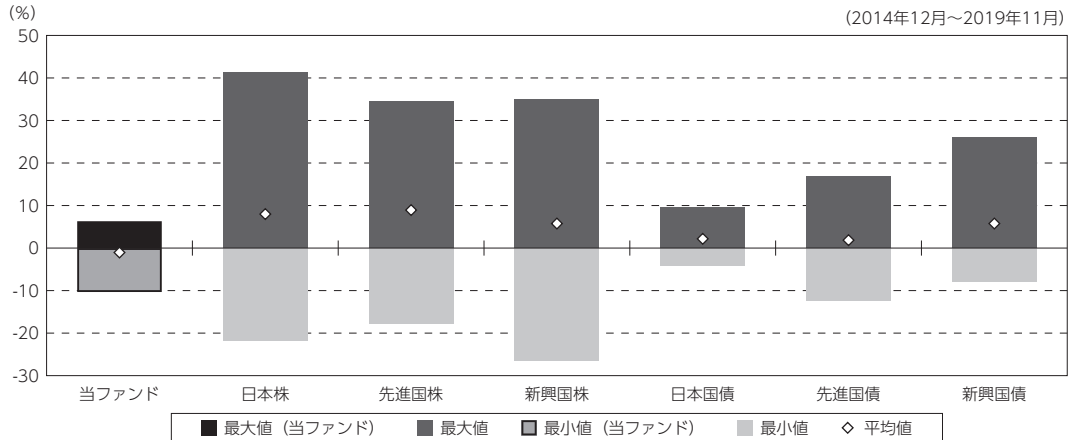
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限（設定日：2016年12月29日）
運用方針	この投資信託は、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	主として「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」及び「F O F s 用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にスリランカの短期国債等に投資するとともに、残存期間の短い債券を中心にポートフォリオを構築することで金利変動に伴う価格変動リスクの低減をはかり、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざします。
分配方針	毎月17日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。分配対象額の範囲は経費控除後の配当等収益及び売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	6.3	41.2	34.5	35.0	9.5	16.8	26.1
最小値	△ 10.3	△ 21.7	△ 17.6	△ 26.4	△ 4.1	△ 12.3	△ 8.0
平均値	△ 1.0	8.0	8.9	5.8	2.2	1.9	5.8

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2014年12月から2019年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2016年12月29日(設定日)から2019年11月29日のデータを基に算出しております。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注5) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式

先進国株…Morningstar 先進国株式 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式

日本国債…Morningstar 日本国債

先進国債…Morningstar グローバル国債 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

\*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2019年12月17日現在)

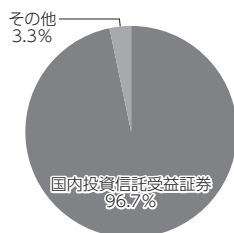
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第35期末
	%
SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)	96.3
FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)	0.3
組入銘柄数	2銘柄

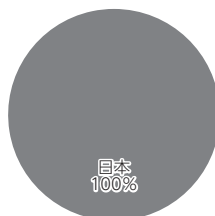
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

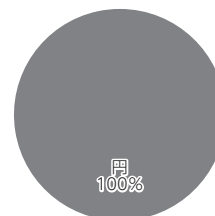
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

項目	第30期末	第31期末	第32期末	第33期末	第34期末	第35期末
	2019年7月17日	2019年8月19日	2019年9月17日	2019年10月17日	2019年11月18日	2019年12月17日
純資産総額	331,704,279円	323,563,445円	322,927,467円	319,606,015円	313,967,950円	312,925,947円
受益権総口数	388,935,801口	383,646,282口	383,994,247口	378,716,752口	372,234,328口	370,067,857口
1万口当たり基準価額	8,529円	8,434円	8,410円	8,439円	8,435円	8,456円

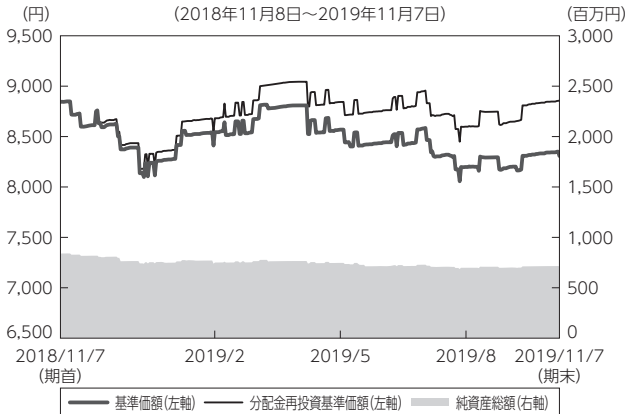
(注) 作成期中における追加設定元本額は15,876,919円、同解約元本額は33,231,067円です。

## 組入上位ファンドの概要

## SBI ボンド スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)

以下は当該ファンドを運用するSBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社からのデータを基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

## 【基準価額等の推移】



(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2018年11月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年11月8日～2019年11月7日)

入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

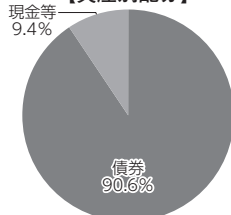
## 【組入上位10銘柄】

(2019年11月7日現在)

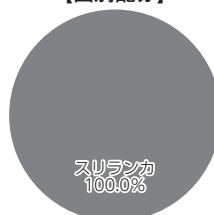
	銘柄名	国(地域)	比率
1	SRILGB 9.45% 2021/10/15	スリランカ	51.3%
2	SRILGB 11% 2021/8/1	スリランカ	39.3%
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数		2銘柄	

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

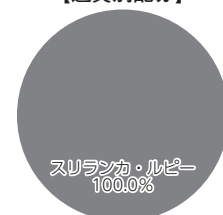
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】

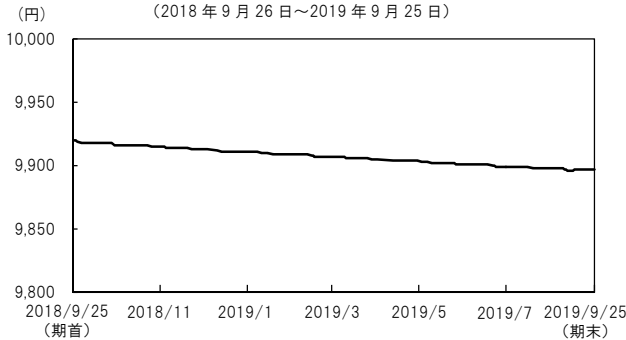


(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年11月7日現在のものです。  
 (注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。  
 (注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書を基に作成しております。

### 【基準価額の推移】



### 【1万口当たりの費用明細】

(2018年9月26日～2019年9月25日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 信託報酬 ( 投信会社 ) ( 販売会社 ) ( 受託銀行 )	14 ( 11 ) ( 1 ) ( 2 )	0.140 (0.108) (0.011) (0.022)
(b) その他費用 ( 監査費用 ) ( その他 )	1 ( 1 ) ( 0 )	0.008 (0.005) (0.003)
合計	15	0.148

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

### 【組入上位10銘柄】

当期末における該当事項はありません。

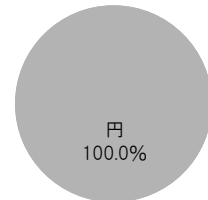
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年9月25日現在のものです。

(注2) 1万口当たりの費用の明細は、「FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)」の直近の決算期のものです。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、「FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)」の組入ファンドである「短期金融資産 マザーファンド」のデータです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### <各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### <重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。